

【都外でのCO₂排出削減への貢献】

- 都外でのCO₂削減への貢献を大消費地である東京都の責務としている点、消費ベースの温室効果ガス排出についても着目している点について、評価・賛同
- 生産から消費に視点を移した際に、必要になってくる情報をどのように収集していくかについては、大きな課題があるものと思料
- 消費ベースCO₂の施策が、住民・企業にとってどのようなベネフィットがあるのかということ、うまく説明していく、みせていくということが重要
- 企業活動において、都内のみならず都外そして国内外での資源循環・温室効果ガス削減への取組が評価されることが必要
- 都外でのCO₂削減への貢献にあたっては、排出量取引制度における都外クレジット制度のようなかたちで制度設計することができるのではないかと。
- ゼロエミッションと資源循環を結びつけるにあたり、コストベネフィットの検討が必要。ベネフィットについては、企業で取り入られているインターナルカーボンプライスが参考になる。
- カーボンフットプリントの算定やフットプリントの見える化など、行政が全てを担うと労力が不足するため、行政は義務化・標準化を行い、評価は市場に任せるといった仕組みが有効
- カーボンフットプリントの観点で、森林の減少につながっていないかということが重要
- ウォーターフットプリントが国際的に注目されており、東京を魅力的な街にしていく柱として、水循環・水のサステナビリティなども重要

環境審議会第38回企画政策部会（前回）における主なご意見について

【資源循環施策全般】

- 2050年に向けたチャレンジで書かれている内容の一部は、少なくとも2030年近傍を目指して取り組んでいくことが可能
- SDGsの視点でより多面的に目標達成を追求していく必要。フードバンクでは福祉分野との連携、ごみ出し関連では高齢化社会への対応、消費や廃棄物など県境がないものに対する関東圏での連携、他分野とのパートナーシップという観点は非常に重要
- 規格化や標準化、また、パートナーシップで様々な事業者・関係者が一緒に協働できるようにプラットフォームをつくっていくことが行政の重要な役割
- 学校教育でのタブレットの配布などの機を捉えながら、クールビズにあたるような「東京基準」、「東京スタンダード」といったような、市民向けに分かりやすく伝わるような普及啓発が必要

【3Rの推進】

- 3R（リデュース、リユース、リサイクル）では、リデュースから優先順位がある
- リデュース促進には、過剰な生産・消費を抑制するためのインセンティブが必要であり、どのようにインセンティブをつくり出していくかが課題
- シェアリングエコノミー市場が拡大しているところであり、その育成というのは非常に重要

【プラスチック対策】

- 海洋プラスチック対策については、ゴーストギア(海に流れ出た漁網などの漁具)の問題が大きくなってきており、海洋水産物の大消費地である東京都は、再生物の利用という形で貢献可能
- バイオプラスチック等の代替素材の増加が見込まれる中で、使用にあたっては代替素材自身の持続可能性のチェックが必要
- マイボトルを持ち歩いてもらうために給水スポットを設置することは、プラスチック対策はもちろんのこと、熱中症対策や、誰もが安全な水へアクセスできるという観点からも効果的
- 今後、国の法律に基づいてプラスチックを一括回収し、できるだけ焼却を減らし、リサイクルを増やしていくという方向性で進んでいくためには、選別という段階が非常に重要
- サーマルリサイクルは、GHGプロトコルでは排出に当たる。また国際的には、もはやリサイクルと認められない動きになっている。
- 人口密度の高低などによりモノや人の移動コストが大きく異なり、環境対策を画一的に適用できない場合もあるため、世界の潮流、方向性をそのまま適用できるかについては吟味した方がよい。
- 資源はできるだけ地域内で循環することが望ましいため、輸送コスト・移動コストも含めたカーボンフットプリントの概念が資源分野でも必要

【食品ロス対策】

- 防災備蓄用品は、民間でも相当数を備蓄しているため、企業の防災備蓄用品を活用することで、食品ロスの軽減と防災の両面での資源活用が可能
- 食品ロスそのものへの取組は重要だが、気候変動対策として位置付けるのであれば、生産側の持続可能性にも注目する必要がある、食品のトレーサビリティの確保も重要

【環境配慮設計】

- 製品の作り方にどこまで遡れるかということが重要。
①製品のデザインをどれだけリサイクルしやすいものに変えられるか、②製品に使われているマテリアル自体の環境負荷をどう減らせるか、③製品そのもの、あるいは分解の際にそれぞれの由来に遡るプロダクトパスポートのような情報をどこまで載せられるかの3点を深掘りできるかが、今後のサーキュリティを高める点において重要
- 先進企業との連携や支援をしていく上で、東京都や区市町村のグリーン調達是非常に重要。先進的な製品、サービスの提供に対して、東京都が率先して、一定の基準を見せながら調達活動を組み立てていくというのは、非常に重要な施策